雅遊漫録

特 7
332

伊藤篤太郎記

国立国会図書館　タイトル『雅遊漫録』　請求記号 特7-332

ガラス使用

特7-332

雅遊漫錄卷之五目錄

琴 附譜
和琴
笛
篳篥（ヒチリキ）
箜篌
琵琶
笙
三皷 太皷 鉦皷 鞨皷
洞笙 尺八
詩歌
寫字
畫圖

国立国会図書館　タイトル『雅遊漫録』　請求記号 特7-332
ガラス使用

南京笛 附譜

雅遊漫錄卷之五目錄終

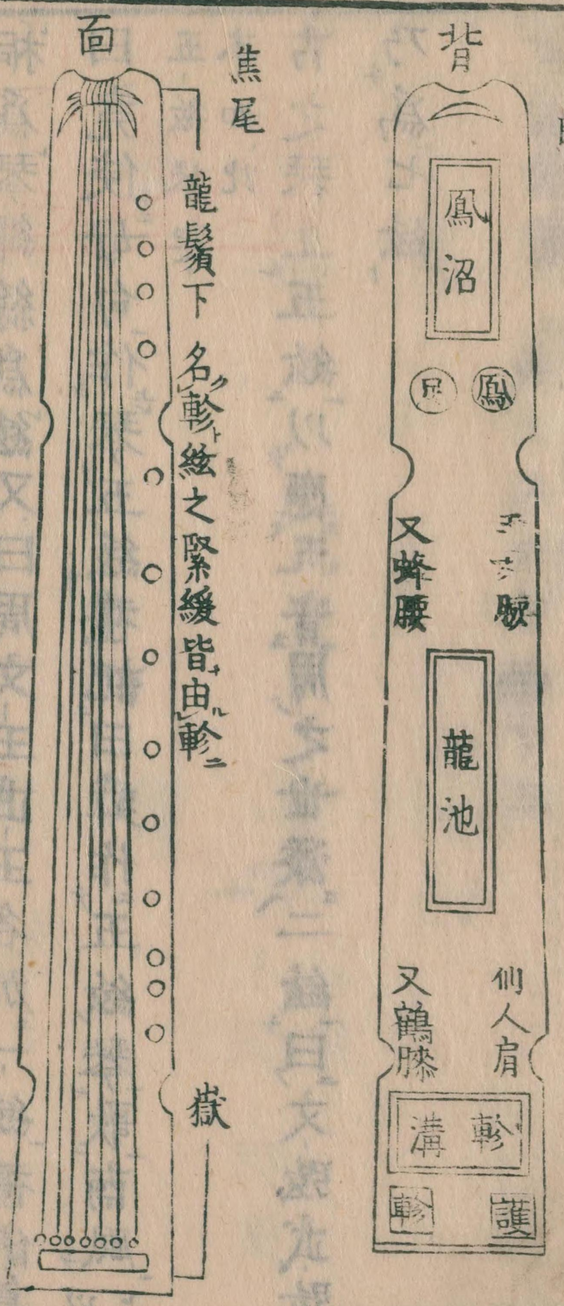
琴

帝王世紀曰炎帝作五絃之琴桓譚新論曰神農始削桐爲琴繩絲爲絃又曰周文王武王各加一絃禮儀纂曰堯使母句作琴五絃禮記曰舜作五絃琴歌南風以五絃起本如此

古之琴止五絃以應五音周之世添二絃曰文弦武弦乃爲七絃

七絃琴圖 長三尺六寸 徽十三

国立国会図書館　タイトル『雅遊漫録』　請求記号 特7-332
ガラス使用



右手字譜

毛 托也大指入曰托

弗 拂也向裏輕抹數弦加一声

尸 擘也大指出曰擘

六 蠲也以食中兩指齊下勾抹

木 抹也食指入曰抹

丘 度也食指輕歷數弦如一声

七 挑也食指出曰挑

类 半蠲也食指才抹中指急勾

勾 勾也中指入曰勾

夷 連蠲也中指著絃又復急勾

易 剔也中指出曰剔

夸 双勾也先抹次勾急作兩声

丁 打也名指入曰打

婁 負娄也食指中指齊下勾抹

商 摘也名指出曰摘

三巛 三鎖也大掐食指先歷後抹

冊 輪也食中名連出

長巛 長鎖也托定四弦然後挑抹

單 彈也大壓食中彈

象 撥刺也勾抹打剔四声如一

念 捻也大食指捻起

旬 間勾也勾五打四挑所按弦

左手字譜

大 大指也 人 食指也 中 中指也 夕 名指也

尢 散声也

而 臑也隨所彈弦声上少許撞一声急復

之 吟也有肉吟甲吟以指往來延其琴韵

旨 綽也綽向上使來声無頭遠綽在徽外

主 注也注向下使去声無頭遠注在徽間

弓 引也打三復以按指隨弦緊引上有声

弓 泛声也 鳥 搗也打三大指虚搗下著三令有二声

対 對按也 卜 徽外也 厂 歴也 从 從也 省 少息也

山 徽字也 已 起也 乍 作也

琴譜直解

彗 左手大指按第五徽 右手名指打第三弦

酋 几散也乃不按可也 右手名指摘第二弦

𠫓 左手名指按第八徽 右手大指擘第六弦

𠫓 左手食指按第六徽 右手中指勾第四弦

𠫓 左手中指按第七徽 右手食指挑第五徽

其餘字譜並准此

開指黄鶯吟

芑 黄 𦬊 鶯再乍黄鶯 莫 金吉古 𦬊 簇 芑 反 芑 反 𦬊 語 莫 挑 芍 杏

蘆 益深 𧈧 處 芽 又 芑 隨 莫 煙 芍 外 蘆 遊蜂 𧈧 去 蓁 絲

莫 狂 芑 歌 𧈧 舞 以上陳元靚說

琴譜此類こゝろをこれて推して知るへしこれ餘ハ世間よくハしき人小面交口決せざれハ書得ふくハつくしうるしそれ大きことを

国立国会図書館 タイトル『雅遊漫録』 請求記号 特7-332 ガラス使用

著ㇾてちんむ

洞天清録曰彈ㇾ琴對ㇾ月夜深人靜明月當ㇾ軒香爇ㇾ水況ㇾ
曲ハ彈ㇾ古調ㇾ此ト與ㇾ義皇上ㇾ人何異但須ㇾ在ㇾ二更ノ後三更前ニ
蓋初更ハ人声未ㇾ寂三更則人倦欲ㇾ眠矣
又曰道人彈ㇾ琴琴不ㇾ清亦ㇾ清ㇾ俗人彈ㇾ琴琴不ㇾ濁亦濁ㇾ而
況婦人女子倡優下賤乎
又曰古人所ㇾ以不ㇾ用ニ金玉ヲ而貴ㇾ蚌徽者蓋蚌有ㇾ光彩得ㇾ
月光相射則光彩愈煥了然分明此正謂ㇾ對ㇾ月及膝上ㇾ
横琴設若ニ金玉ノ則否今人少ㇾ知ㇾ此理ヲ然當用ニ海上產珠
蚌ニ則有ㇾ光彩

琴ハ古ㇾ之所ㇾ以ㇾ為ㇾ琴ノ者ㇾ以ㇾ其ㇾ有ニ中夏之人ヲ邦
ㇾ之ㇾ所ㇾ有ㇾ也恐ㇾ久ㇾ而ㇾ古調ヨリ
ㇾ之久ㇾ而弥ㇾ疎ヨリ

箏

箏ハ十三弦のりにて本邦雅樂の時用ㇾ之一種筑紫箏あり是
を替手あるを恐ㇾ久ハ古調ヨリ
ㇾ之久ㇾ而弥ㇾ疎ヨリ

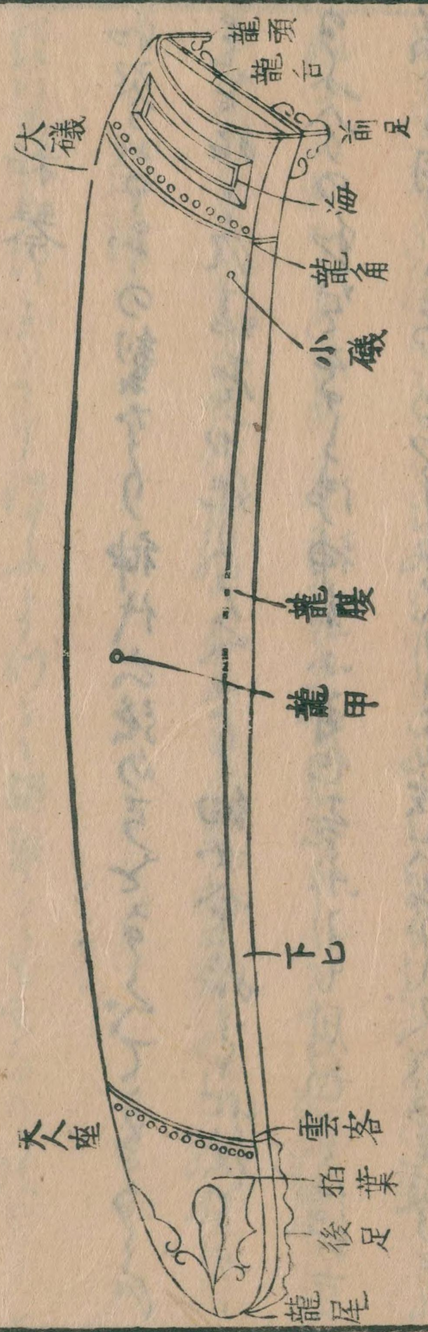
箏ハ十三弦のりにて本邦雅樂の時用ㇾ之一種筑紫箏あり是
を替手あるを恐ㇾ久ハ古調ヨリ俗人の箏ハ樂
箏を樂ㇾ之ㇾ久ㇾ而弥ㇾ疎ヨリ俗人之箏ハ樂
箏ハ秦ニ世ふ始ㇾ之ㇾ文獻通考曰箏秦
声也傳玄箏賦序曰世以為ニ蒙恬所ㇾ作ル今観ニ其器ヲ上崇
似ㇾ天ニ下モ平テ似ㇾ地ニ中空テ準ニ六合ニ隨ニ弦柱擬ニ十二月ニ設ㇾ之則四

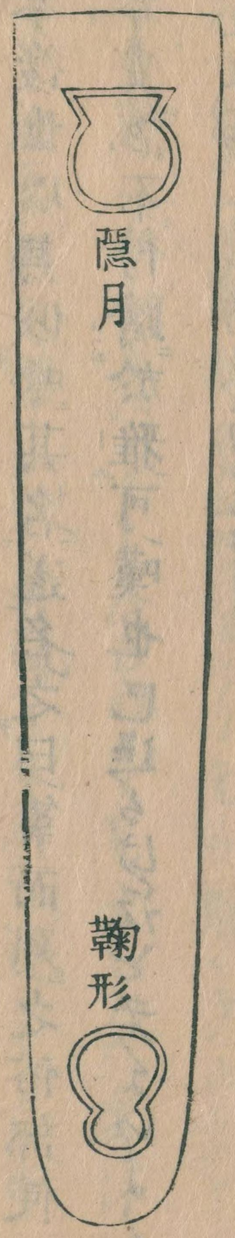
国立国会図書館　タイトル『雅遊漫録』　請求記号 特7-332
ガラス使用

象在鼓之則五音発斯乃仁智之器豈蒙恬亡國之臣能之哉此説による時は秦に起ると必いふべからざる今の箏は恐くは頌琴とはこれのまちらん歟　同書に云十三絃柱如琴古之善琴者八十餘家各因其器而名之頌琴居其一焉其絃十有三其象箏移柱應律合頌声也

此説によれば今の秦箏といふ事は頌琴とはこれのならん乎邦箏乃事ことごとく池さんと歎すれども其傳公家に秘すれば志げらくさし置ぬ其図をおして名所と志はむ但し十一以後の三絃を斗為巾といふ

箏背圖





日本箏傳来は始は醍醐天皇をおしたる法管要抄系図に

唐荊川稗編四十一巻曰箏本頌琴別名頌琴十三絃移柱應律其制與箏無異古宮縣用之合頌声也是知箏本頌琴後世以其似呼其名遂名之曰箏而列之俗部使頌琴受誣不得躋於雅可嘆也已追るは説を考ふ[illegible]

先に論ずる所にて[illegible]

和琴

和琴ハ日本の製なり神代六弦の弓をなすべてこうきなるは是を始とす[illegible]細女命始て此弦をなす[illegible]今の和琴[illegible]神楽小[illegible]周[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘中の秘なるもなりとなるべし弦[illegible]

[illegible]

琵琶

琵琶ハ本[illegible]胡琴[illegible]弦[illegible]

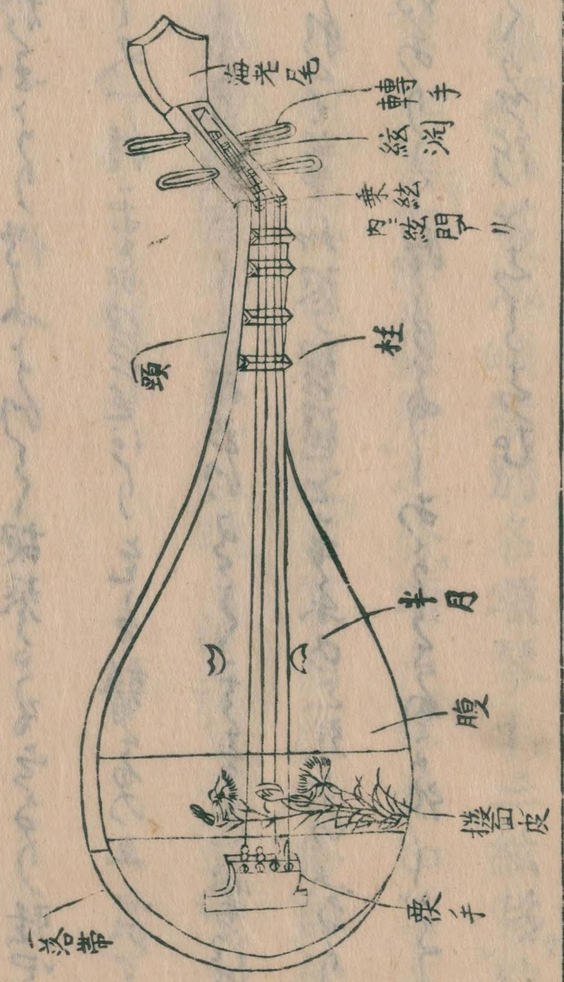
柱[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

笛



笛ハ稽古あれども今音楽に用ゆるの格笛大笛の二切なり
御神楽には大和笛と云ものを用ゆ楽笛よりもし物笛ハ
細く六孔ゝ笛なり籥と云ものは似たり調ゝさ笛ハつゝみに
たのしむに簧乃損しく新ふるすなく笛筆策より世話かれ

志かれども和心の人ハ息入かたく調子ゝ毎くハめくるゝ是笛の
難なりすべて吹拍ハ調子孔よりなり行ひ出ども吹人の薄の笛
やうあしかれど調子くれて空くるし能く薄成わんころ
小笛ぶぶ

大笛（ヲホフヱ）圖

狛笛（コマフヱ）圖

楽笛ハ今社猿乗の笛とはちがひ吹口と一の孔のみすぐ
猿楽笛ハ此あいだとせまくしたるものなり利

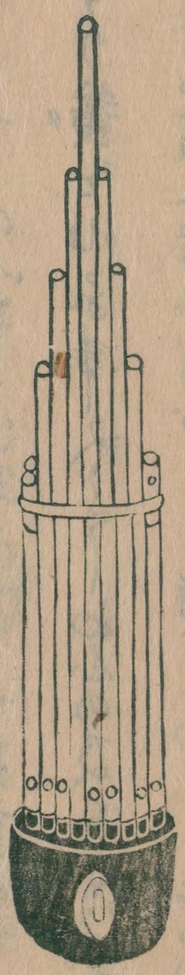
国立国会図書館　タイトル『雅遊漫録』　請求記号 特7-332
ガラス使用

洞子ハ狗笙ハ此やうにとりたるものなりまぐべく楽のる
秘しすゝ毎年ハ委しく記しがたし

笙

笙ハ女媧氏の作り始めらしとや日本の笙とりろくし
より作へしこのなり笙ハ能しらばくよ紀管を持てば鳴
すハせまけれどもしまうゆつも息まくらとく稀くおるとも
あらく功者と初心とは格なりしてうれとしろうと吹
ことも大やうまさざれ易くさは笙なり譜ハ時代ありしす笙
箪篥よりこうしゆうすハ易くさことのなれどもと初心にてハ
簧の洞なりかたしこれ解ハ秘しすゝ毎年ハ其趣をあらほ記

鳳笙圖



胴箍　匏　歌口

竹ハ十七本あり簧にうまく鳴ことのハ十五本なり二本なるさ
竹ありかしらハ桐まくて作り今能のうな抱あつて簧白銅（サハリ）の
まくて作り笙石とも此をぬるなりて甲乙の洞子とりると
蠟まくおとりを付るなり稀くの口決あるなり

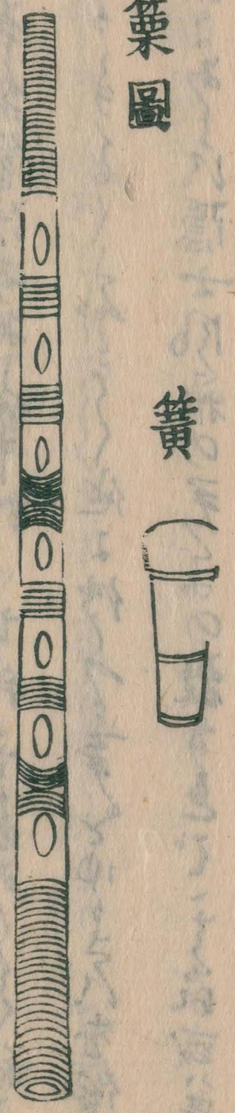
箪篥（ヒチリキ）

箪篥ハりと亀茲國（キウジコク）の楽器なるよし是も於國より来る

なり古ハ大篳篥小篳篥とて二いろあるしが中ほどより大
篳篥ハ絵ゑく今小篳篥のことまて左右の楽ともに用也其ハ
よりしこそ作る法國粉戸野村の芦を市に寶せ其外のりは
ハおく換し音とあしく古く久しくうちまく作るなるにふるて
のみなり是もかくなげさゆるまうしといへども吹す三管
乃中まく第一むつかしきものとむ功者和尚素人よくも吹
ことうち易くかしの吹ちがひ耳にさらさまうてゆゆを
こさものなり簧(タ)を作る事又かたし和尚の及所にはなげ以上
こまにまぐくを楽の三管とていづれも一得一失ありてゆゆひがたさ
ものなり蘇そのうしらまく外のりはとちがひ楽一道ハふかきなり

あく秘す事あくあるなり今篳篥は図をもしてこれを
しらしむ背に孔二ゆあり

篳篥圖



簧

三鞁

三鞁ハ大鞁鞨鞁鉦鼓の三ゆを云なり音楽舞手とも
用也世外一鼓を用る楽あり狗ハ三鞁を用也さべて其和
ハ吹拍よりむゆりしきものとおく楽ハ吹物にかゝり迄

国立国会図書館　タイトル『雅遊漫録』　請求記号 特7-332
ガラス使用

素よりんやすきものまく樂と吹ぬよりかしとくぬくぬ
へつまさふれあらば素むろうしきもれまくまくさくこもなる
もれなり然れども携へ行まはたくさくけしあるまうさり
て雅なるものなり

右青樂管弦歩拍子事於　本邦こそ家ありしく秘すと
すらすくぬくらぬまく他に傳ふる事をゆるさぬ俗人の
樂にあらば隠士風雅の若子の教すれどこそ家或ハ貴家
の外にはこゞろもにすべからざるものなりこそ樂ハくぬくを
唐朝の製作なり世邦まく作る所とくぬし狗ホハそのうち
高麗よりや傳ぬらんすべて正声雅韻ハ邪穢を溫滌(タウテヤ スゲ)して

鬼神を感格す人の心を正し治む淫樂邪変の人を湯ふ
ものと日を同じふしてうたるへからば況や媚家ふ心の人を
にそんを惡れあり

洞笙

洞笙のすハもろこしまくまくまる用家ものなり　本邦にて
も古れ樂器目録まうんへよりむかしハ雅樂に用ひしこや
今れ一重切の世く細くさやうなるものなりこそ傳ふ吹
やうも傳ふ志れ赤壁まくまく東波ハ遊ひし時明皇の揚
世昌ハ吹しもこれなり彼の賦に云るごとく微音りしこく
こそ夕陽のごとく今れ一重切のおそくうたきやうの夕ん

余ゟ家たゞさ洞笙を作へうけたことのありたゞ思して知らしむ簫とゝものとハちごうふなりそハ洞簫とゝく

惣長サ一尺九寸

今世ふるくある一節切とゝものも洞笙の屬なりむかしの樂器目録に尺八とかゝり一節切一尺八分あるにより尺八といふなり今ことも作れ吹尺八ハこれをのぶしふとく作りたるものなり其尺八ハ一節切のうへ中法ハ貴分なるものなり一節切を吹てやさしきものなり余十ケ通お一節切の辯を作る今家に合せ紀に

洞簫辯

むかしより吾國洞簫一節切尺八の三ツありて世に敬洞簫ハ志る人希なり洞簫の船ハ細くもく声も又微なりそ管作りて僧を以方も石作今此世に一節切とゝるものハそ変化なるべし其さ一尺八分あるハ尺八也古に云しものずらんか今俗に尺八とてもくふと紀ものを元三絃に合く用るにより今ハ調子下くなりそ変ゆく淫なり三絃ハ元の世に始まりしハ吾朝に作ふると又そ後なるべし尺八今の一節切の吾國に昔よりあるる

ことなきためしまた慈覚大師 大師ハ延暦十三年誕生貞観云年寂凡至今八百年也号圓仁
傳教大師の弟子なり 喜和メ子ニ見ヘまし まして尺八をもて引声の阿
弥陀経を吹ゆふ事東斎隨筆に載たり吉野拾遺云つく
しの家 中務懐良親王号鎮紫宮 後醍醐天皇の御子なり 乃御年もゆかせ給ひざる
御とき尺八をめし天せいぬを好させ給ふ吉野の御幸にふる
せ給ふにつんなるまぬうろくぞ教ふまゝ給ふなり御どりより
ぬ上もめづらくなる興ぜさをなくハたぐひなきものいぞ載
たり此ものを得てく尺八ハ鎮紫宮より始と覚へたるハ此
なり慈覚の時まてにまたハこれ来ると之しもろこしこそと
後漢馬融所賦長笛空洞無底剡其上孔五孔ハ出其

背正似今尺八と通雅にみへたり 又融賦云易京君明
識音律故本四孔加以一君明所加孔後出是謂商声
五音畢と事物紀原にし載たり 困學紀聞曰房介
然善吹尺八云 醉卿日月酒令曰遠望漁舟不闊尺
八憑景一吹已覚空喉丹鉛總録曰簫管之制六孔旁
一孔加竹膜焉足黄鐘一韻聲或謂之尺八管 ト云唐笛
のすなわちぐし 我ども是も尺八 こゝ外容斎隨筆逸史仙隠傳文
こゝにやかやうにしるせり
字禅等尺八のことを載たり牧峯ものハ遑あらず今ハ
らく異を又文選王褒が洞簫賦ありて其ことを乃べ
たり鳴物をいふ事分にしたりしよりこゝにしたりに普化

禅師をおして薦僧の祖とす鳴東来の曲などいへるもの残
りおかせり或書に一節切ハそのころ異人ありて宗佐老人に伝へ
宗佐ハ高瀬備前守に伝へ備前守ハ實相坊円尼に同文也補
に伝へ宗和坊ハ教院に伝へ教院ハ安田城長に伝へ城長ハ大森
宗勲に伝へしく今に其流世によく伝へりとぞ
余多年一節を数多世にうるく岩松と云刻名の管を見
昔日とらく小堀遠州侯の名被ある管も見たり中沈ハ銘外
なりしものとつたへより一休和尚の尺八の云ふごとくあり
それより後に志らくを古きよりつたえし書り伝へ其を
らうし沈を

尺八ハひとよきりといひしかり

むかしの老の友とよりあむ
かりくに我よまかさる人よりも
たく尺八の音をそこもなる

詩歌

詩歌のよの大よして一云ふに書しるしつ絵ぐしハ三百余篇
よりこのころ唐朝よよりく盛なり土來ハ明朝の松年
もくめの詩を好むども余ハあまり好古董店面の中ヽそ
行やくやたりしへうみをくさしておくさかうすられ紀庭の温
雅すろ文殿まる張士山君の風雅するをみるとかうたるこそ好

ましけれ夜の詩ハこゝ中央をはてておごせかうまして始詩のこゝりつき
たるをこゝろやうにハなし自身詩を作ことまたハ労多し隠士の都ハ
名利にかゝはらさまぐ古さ気にへし詩を書ありめ楽とし
へし詩をまたさく楽とする人ハ格なかなり猿家に對して詩
をふ作ハ不禁技癢とうくかまさ変をうくぎにいたる事のおら
ぬやうなとなり多くの人ハ口にまかせてくゝ云ふかも又すく
白楽てが詩ニ自従苦覚空門法。銷盡平生種々心。唯有
詩魔降未得。毎逢風月一閑吟。こまらしと第一のおもて
ともどもとかく詩がやめぐらく風月をみくハ不覚撩うさ
まく詩を作ることなり多くの数ハさしとあるくし続てユより

ことより苦く作りなさんも無意のくのなり心気を労してかく
つく佳句も出まし漫不発人死不休の都ハ漏しかたし抱
しと詩ふかざらぎ好ふ好あまたバ一緊に漏しかたし明の方
孝孺族詩句に発揮道徳及成文枝葉何曾離本根。末
俗競工繁縟體。千秋精意與誰論。と作りしも理屈ハさる
ちやうなまとも李白杜子美もあまり操履のよくさ人
にもけらさまとも詩聖詩神なしぐらり詩にハ詩者とくお
にユこふ作る人あるよし古よりさもそりさもとくべし
歌ハ本邦のこふしてもろこしの詩と同じ第三集より此
かた廿一代の集ふ出りて和庭にまゝ傳文の大事にしかふ

こしらへまでも事あらしさまに論しうらし其道にまける
人の命にうへて名分をとらぬまでしたしもあまはりろうし
の死とも不休とは同じこと楽にて楽をしむ人にはしらざれ
ば外より論しうらし本邦風雅社第一とまうすり古の風雅
の人隠士閑人たまふ是は我常せざらん殊に詩はりろうし乃
事にして押て学ぶ時は委こさしまはしはしらしらん歌の事にて
庶人にくも強く好き学ばしき秘伝にも至りへしいつか程も
こと多あらばつくし学ぶべしこと國にしてこと国のことを学ぶな
れば詩よりも和り易からむものに添こさ事はいざしらざれ
ハしばらくおいて無ぜんこと程に委こさ先生を求くしたり稀

知るべし歌も自らよこれ人は古今の中にくしら句に
くらふ奇をうさぬれて是常に吟じて楽むべし名奇一首
のおほ命を挑詩の世相にくし人を害れ類は玩物喪志のうらん

寫字

写字は此國に云ふ事なり法帖の字を写れは古人の楽く
齊齋が十楽の一つにも此事をいふも弄筆窓間隨大小作
數十字と羅大經にもいくものを書も隠士閑人の楽の
一つなりこれは書くつくしうらし古人の得意語道の句
書式にはふ集めり余書家必讀書法提髓の書を撰ひ並
し也篆隷行草等に書学書法を集む書體書體

雜類の手にうりくこれをつくれ書ハ云藝の一にして
ゑらくいまひがたし　歐氏試筆云蘓子美嘗言明窓淨几
硯紙墨皆精良亦自是人生一樂然能得此樂者甚稀
其不為外物移其好者又特稀也余晩知此趣恨字體
不工不能到古人佳処若以為樂則自是有餘此論の
ことく雜書の地にゑらぬ字體あしきハ恨なれども是を
樂とせば何ぞ是にかくけん歐氏の云我に確論なり
そもそもあらず業とせざる人ハ樂のゐにすべし

畫圖

画図も書につぎくの一藝にしてゑろくしまくハ風雅の

人畫をよくせざるハなし毎く書をよくする人ハ畫もよくれ
畫傳の教ふるべし本邦にも畫家の外世界公子文人僧隠
士の類畫を能する人ゐし日本の畫傳を人に乏しからぬ是
も強く俗所にハ知りがたし自ら能せざる人ハ古人のうきつ通し
畫巻畫軸を集て樂とする人ハ展所藏法帖墨蹟畫
巻縦觀之と羅氏も云く山居の樂とれ古人琴碁書畫を
樂れ最上ともせり雅人賢士の樂ゐくハ是をもてあそぶ
なり畫を古人無声の詩とせり後なる式書と畫とハ股
肱なりそ用をこ時ハ書ハ畫にまうさまり此後をこ時ハ畫
ハ書にうとしたふ起まりいかんとなれば書のたしめハみる

像取をおとれる遺像を絵出して書後になれるものを
古人絵を臥遊とせりふして居るから唐大和の山川名跡
にあぶとゝ云ふなり綱川の圖をもらく病いへ漢の劉褒が北
風の図をみたく異中に人ある寒をなくしとなり画の人
を感じる事又如なり
養老新書曰子弟遇好圖畫極宜收拾在前士大夫家
有耕華築巖釣渭浴沂荀陳德星李郭仙舟蜀先主訪
艸廬王羲之會蘭亭陶淵明歸去来韓昌黎盤谷序晉
廬山十八賢唐瀛洲十八學士香山九老洛陽耆英古
今事實皆繪為圖可以供老人閑玩共賓友高談人物

山水花木翎毛各有評品吟詠亦以廣後世見聞梅蘭
竹石尤為雅致瑤池壽郷圖慶壽近年有壽域圖備列
歷代聖賢神仙耆壽者丹青粧點尤為奇玩
古人畫を以て無声の詩とし詩を以て有声の畫と云繪
ハこれをあらはし詩をこれ情を極をおこり其ことは
山水猿京四時変代なり詩を楽を畫を示まんより其
あらはしを楽ハ労する事なく楽ことなるべし
絲竹ハ夜も風声あり鳥虫の弟籟にしたがんかれども
自然にあるものと人の工に出るものとこれ趣の楽を知るべし
すべて道を知て楽むものハ凡天地のうるに満つるもの心目

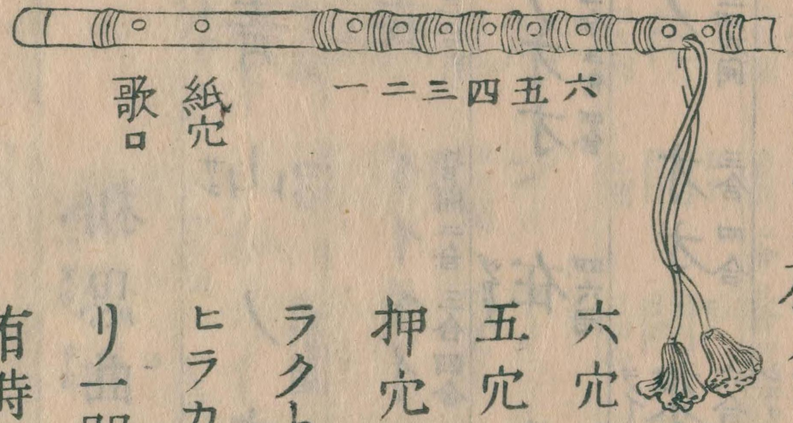
の觸る所皆已か樂を資ることのとなる所ども心物に寓すべし
物に溺るべからず物に寓する人は天の自然を樂むことのしてこ
る理を樂なり物に溺るゝ人は私欲かへりて苦を生ず寓と
溺とは其事なるべしだあるべからず佛老の教世溺所を創せ今
こゝろへりて快に至るゝ虚無に至る虚無に至る樂もなし前
の藝を樂とするは苦しくなるゝ樂なりくるしまさるは又
樂もなし二なるべし無はなるべしよりしんなるべしも生分なく
さゆうにはなるゝぬ所理を無理を知るを道知る人也
いふなり

南京笛 附

南京笛は今をろこしにて詩を深ひてこゝろにのせて
吹く笛なり又小曲(コウタ)をものせて吹かりそれ吹方譜
笛の図等をくはしくこゝろのせて詩し侍る
此書に載る事 清平調 太平樂 秋風辞 陽関三重
曲等に譜あり其事何ぞくも詩を唐書にてこゝろ
の様に吹なり番は其侍を見てあるべし

笛記

笛滌(ナリ)也所以滌(ナリギ)邪穢(ヲ)納(ル)之於雅正(ヲ)也長(サ)一尺四寸七孔(ナリ)
笛音一定諸絃歌皆從笛為(ス)正(ヲ)笛之所出(ル)有(リ)雲梦之竹
衡陽之幹(クダ)柯亭之竹 雲梦衡陽柯亭皆名竹也



南京橫笛之圖

六穴ノ內一穴ハ歌口五穴ハツ子ニ押穴ナリ皆ヒラクト有時モヒラカサルナリ一開五閉ト有時閉クナリ

音律之詞 口傳

彈（タン）ト八	蓋（カイ）ト八	窺（キ）ト八	放（ハウ）ト八	札（サツ）ト八
指一ツ打ヲ云	指女上ルヲ云	指ニテナツルヲ云	三三四六ヒ指上ルヲ云	三三四六ヒニヲサユルヲ云

国立国会図書館　タイトル『雅遊漫録』　請求記号 特7-332
ガラス使用

笛譜

傍ル所ノ華言詳ナラスト雖曲節ニ害ナカルヘシ故ニ旧ニ依テアラタメス

相思曲（レヤンスウキヨ） 三節

○青（チン） 四六開　山（サン） 四合　ノ 三四六開　オオ 三合四合　在（ヅアイ） 六合引　緑（ロヲ） 四六開　水（スイ） 四合　ヨオ 三四六開引

在（ヅアイ） 三合引　イイイイ 皆開二合三合四合　情（ヂン） 四六開　人（ジン） 三開三タン　コ　不（プ） 皆合　曽（チヱン） 皆開

ノオオ 二合三合四合　在（ヅアイ） 四六開　イイイイイ 皆開二合三合四合六合引　○風（ホン） 四六開　常（ヂヤン） 四合

ノ 三四六開　オオ 三合四合　來（ライ） 六合引　雨（イ、） 四六開　常（ヂヤン） 四合　ノオ 三四六開引　來（ライ） 三合引

イイイイ 皆開二合三合四合　書（シユウ） 四六開　信（シン） 三開二タン　コ　不（プ） 皆合　曽（チヱン） 皆開　ノオオ 二合三合四合

來（ライ） 四六開　イイイイ 皆開二合三合四合六合引　○春（チン） 四六開　去（キイ） 三開　愁（ツヱウ） 三四合　不（フウ） 皆合　去（キイ） 六開引

花（ハア） 四六開　開（カイ） 三開　悶（モン） 三四合　不（プ） 皆合　開（カイ） 六開　珠（チイ） 皆合　涙（ルイ） 六開　落（ロヲ） 四六開　的（テ） 四合

浣（ワン） 皆合　ン 四六開　了（リヨウ） 四合六合　ア 皆開　浣（ワン） 皆合　了（リヤウ） 皆開　ワア 二合三合　宛（ヱン） 三開

家（キヤ） 二開　涕（テイ） 皆合　イ 四六開　滿（マン） 四合　ン 六合　コ 皆開　東（トン） 二合　洋（ヤン） 二開　ノ 二合

オオ 三合四合　海（ハイ） 四六開　イイイイ 皆開テ二合三合四合六合引收

劈破玉（ピツホヨ） 七節

○一（イ） 四六開　愛（アイ） 四合　ヨ 三四六開　オオ 三合四合　你（ニイ） 六合引　二（リ） 四六開　愛（アイ） 四合　ヨオ 三四六開

国立国会図書館　タイトル『雅遊漫録』　請求記号 特7-332　ガラス使用

你(ニイ) 三合引 イイイイ 皆開テ二合三合四合 聰(ツヲン) 四六開 明(ミン) 三開二タン 伶(リン) 皆合皆開 ノオオ 二合三合四合

例(リン) 四六開 イイイイ 皆開二合三合四合六合引 ○三(サン) 四六開 愛(アイ) 四合 ヨ 三四六開 オオ 三合四合

你(ニイ) 六合引 四(スウ) 四六開 愛(アイ) 四合 ヨオ 三四六開 你(ニイ) 三合引 イイイイ 皆開二合三合四合 人(ジン) 四六開

物(ウヲ)テ 三開三タン 嫖(ピヤウ) 皆合皆開 ワア 二合 アア 三合四合 致(ムイ) 四六開 イイイイ 皆開二合三合四合六合引

○五(ウ) 四六開 愛(アイ) 四合 ヨオ 三四六開 オオ 三合四合 你(ニイ) 六合引 六(ロヲ) 四六開

愛(アイ) 四合 ヨオ 三四六開 你(ニイ) 三合引 イイイイ 皆開テ二合三合四合 一(イ) 四六開 團(ダン)テ 三開二タン

和(ホヲ) 皆合皆開 ワアア 二合三合四合 氣(キイ) 四六開 イイイイ 皆開テ二合三合四合六合引 ○七(チ) 四六開

愛(アイ) 三開 你的(ニイテ) 二打 年(子ン) 皆合 紀(キイ) 皆開 ヨオオ 二合三合四合 少(シヤウ) 四六開 ウウウウ 皆開二合三合四合六合

○八(パ) 皆合 愛(アイ) 六開 你的(ニイテ) 四打 做(ツヲ) 四六開 夫(フウ) 皆開テ三打四打 妻(チイ) 皆合 ○九(キウ) 皆合

愛(アイ) 六開 你的(ニイテ) 四合 温(ヲン) 皆合 存(ヅヲン) 四六開 ノ 四合 オ 六合 オ 皆開 闖(チヤン) 皆開 了(リヤウ) 皆合 皆開

ワ 二合 アア 三合 寃(ヱン) 三開 家(キヤ) 二開 ○十(シイ) 皆合四六開 十(シイ) 四合六合 兒(ル) 皆開 愛(アイ) 二打

着(チヨ) 二合 オ 三合 オ 四合 你(ニイ) 四六開 イイイイ 皆開二合三合四合六合引

百花香(ペハアヒヤン)七節

○桃(タウ) 四六開 花(ハア) 四合 ヱ 三四六開 ヱヱ 三合四合 紅(ホン) 六合引 李(リイ) 四六開 花(ハア) 四合

国立国会図書館 タイトル『雅遊漫録』 請求記号 特7-332
ガラス使用

ヱ　ヱヱ　白（ペヱ）　ヱヱヱヱ　春（チン）　光（クワン）テ
三四　六開　三合引　皆開テ二合三合四合　四六開　三開　二合

明（ミン）　ノオオ　媚（ムイ）　イイイイ　○牡（メウ）　丹（タン）
皆合皆開　二合三合四合　四六開　皆開二合三合四合六合引　四六開　四合

ノ　オオ　花（ハア）　芍（チヨ）　藥（ヤ）　ヱ　花（ハア）　ア
三四六開　三合　四合　六合引　四六開　四合　三四六開　三合引　皆開テ

アアア　匀（イン）　奪（ドヲ）得（テ）　春（チン）　ノオオ
二合三合四合六合　四六開　三開　四合　皆合皆開　二合三合　四合

占（チヱン）　ムムムム　○玉（ヨ）　蘭（ラン）　ノオオ　花（ハア）
四六開　皆開テ二合三合四合六合引　四六開　四合　三四六開三合四合　六合引

紫（ツウ）　荊（キン）　ノヲヲ　花（ハア）　アアアア　香（ヒヤン）
四六開　四合　三四六開　三合引　皆開テ二合三合四合六合　四六開

同（トン）テ　蘭（ラン）　ノヲヲ　麝（ジヱ）　ヱヱヱヱ
三開二合　皆合皆開　二合三合四合　四六開　皆開テ二合三合四合六合引

○西（スイ）　府（フウテ）的　飛（ヒイ）　紅（ホン）ノオオ　雨（イ）　イイイ
四六開　三開二打　皆合　皆開　二合三合四合　四六開　皆開テ二合三合

イ　○滿（マン）　架（キヤ）　的（テ）　綻（テイン）　薔（チヤン）　薇（ヲイ）　○蘡（イン）
四合六合　皆合　六開　四打　四六開　皆開テ三打四打皆合　皆合

粟（ソ）　イテ　花（ハア）　ヱヱヱ　開（カイ）　了（リヤウ）　ワアア
六開　四合　四六開　四合六合皆開　皆合　皆開　二合　三合

花（ハア）　開（カイ）　○萱（ヘン）　艸（ツアウ）　含（ハン）　金（キン）　ノオオ　嘴（ツイ）
三開　二打　四六開三開二開　二打開　二合　三合　四合　四六開

イイイイ
皆開テ二合三合四合六合

清平樂（チンビンヨ）　三節

○蒼（ツ）アン　天（テン）ヱン　如（ジイ）　圓（エン）ヱム　盖（カイ）　緑（ロヲ）
四六三開　三合四合四開　三開　三合四合六合　六開　皆合

国立国会図書館　タイトル『雅遊漫録』　請求記号 特7-332　ガラス使用

地(テ)皆開　似(スウ)二折　碁(キイ)皆合　局(キコ)六開　ヲヲヲヲ四開四合六合皆開　世(スウ)皆開　人(ジン)二合

黒(ヘ)三合　白(ペエ)四合　テ四開　分(フン)三開　ムムムムム皆開一穴開穴合二合三合　往(ワン)四六開　来(ライ)三開

争(ナエン)六開　榮(ヨン)皆合　辱(ジヨ)六開　榮(ヨン)四六開　者(チエ)三開　自(ヅ)三四合　安(アン)皆合　安(アン)六開

ムムムム四開四合六合皆開　辱(ジヨ)皆合　者(チエ)皆開　定(テン)二合　碌(ロヲ)二折　才才才三合四合四開

才碌(ロ)三開二開一開一合二合三合引　才才才才　○下(ヒヤ)四六開三開　邳(ヒイ)三四合　一(イ)隠(イン)皆合　士(スウ)六開

其(キイ)四六開　名(ミン)三開　張(チヤン)三四合　子(ツウ)皆合　房(ワン)六開　ムムムム四六開四合六合皆開　從(ツヲン)皆合

容(ヨン)皆開　乎(ウ)二合　歩(フウ)三合　ウウ四合六合　遊(ユウ)四六開　ウウウウウ二開一開一合二合三合引

維(ヲイ)四六開　在(ツアイ)三開　待(タイ)三四合　天(テン)皆合　時(スウ)六開　維(ヲイ)四六開　在(ツアイ)三開　待(タイ)三四合

天(テン)皆合　時(スウ)六開　ウウウウ四六開四合六合皆開　待(タイ)皆合　天(テン)三四六開　ヱン皆合

時(スウ)六開　ウウウ四三開三四合皆合引

太平(タイビン)樂(ヨ)　五節

孝(ヒヤウ)二六開　ウ三開　感(カン)三四合引　動(トン)皆合　天(テン)六開合　地(テイ)皆開　イイイイ二合二開三合三開

歴(リイ)四六開　山(サン)三開　田(テン)皆開　自(ツウ)一開　治(ツウ)一二合　ウウウウ二開二合三合三開

○鳥(ニヤウ)三四六開　來(ライ)三合　助(ツウ)三開　芸(イン)皆合　ウウウウ六開六合皆開二合　象(ヂヤン)皆合

国立国会図書館　タイトル『雅遊漫録』　請求記号 特7-332　ガラス使用

助(ツウ) 四六開 ワアア 四合六合皆開 耕(ケン) 二合 ○忽(ホヲ) 四六開 聞(ウヱン) 四六合 車(チヱ) 六打 ヱヱ 皆開 馬(マウ) 二合

ワアア 二開 アアア 二合三合四合 轟(ホン) 四六開 ウウウウ 皆開二合三合四合六合引 ○

云(イン) 四六開 是(スウ) 三開 帝(テイ) 二開 家(キヤ) 一開一合 使(スウ) 二合 返ス ○競(キン) 四六開 獻(ヘン) 四合六合

玉(ヨヲ) 六打 ヲヲ 皆開 帛(ペ) 二打 幣(ヒン) 皆開 ノヲヲ 二合三合四合 迎(イン) 二六開

ウウウウウ 皆開二合三合四合六合引

十(シ)三(サン)省(スヱン)六節

○爲(ヲイ) 四六開 寃(ヱン) 四合 ノ 三四六 才 三合 才 四合 家(キヤ) 皆合 十(シ) 四六開 三(サン) 四合

ノ 三合 才 四一 才 六開 省(スヘン) 三合 ムムム 皆開二合三合四合 都(トヲ) 皆合 走(ツヱウ) 四六開四打皆開 了(リマウ)

遍(ペン) 二三四合四六開 ムムムム 皆開二合三合四合六合引 ○南(ナン) 皆合 北(ポ) 皆開 ワアア 六開六合皆開 京(キン) 二合

山(サン) 皆合 陝(スヱン) 皆開 ノウ 六開 西(スイ) 皆合 イイイイ 四六開四合五合皆開 山(サン) 六開 東(トン) 皆合

路的(ロテ) 六開 河(ホヲ) 四六開 ワアア 三開三打四打 南(ナン) 皆合 内(ヌイ) 六開 ヱ 皆合 アイ 四六開

ヨオオ 四打六打皆開 關(クハン) 皆合 東(トン) 皆開 ノウ 二合 オオ 三合 地(テイ) 三開二開二合 ○

關(クワン) 皆合四六開四合六合 西(スイ) 皆開テ二合二開三合四合 イイイイイ 行(ピン) 四六開 朝(チヤウ) 皆開 福(フウ) 二合三合四合六合 縣(ケン)

○淅(チ) 四六開 江(キヤン) 三開 有(ユウ) 二開 一(イ) 二合 個(コ) 三合 貴(クイ) 皆合 州(チウ) 皆開 ニワ

国立国会図書館　タイトル『雅遊漫録』　請求記号 特7-332　ガラス使用

アア　府(フウ)　ウウウウ　○雲(ノン)　南(ナン)テ　行(ピン)
三四開　四開　皆開テ二合三合四合六合引　皆合　六開四折　四六開

四(スウ)　川(チエン)　○人(ジン)　不(プ)　着(チヨ)　我(ゴヲ)テ　行(イン)
三開　皆合　皆合　六開　四開　三開三合四合　皆合

ノオオ　闖(チヤン)　了(リヤウ)　ワアア　寃(セン)　家(キヤ)
四折　六折　皆開皆合　皆開　二合　三合　三開　二合

○我(ゴ)　在(ツアイ)　壺(フウ)　関(クハン)　江(キヤン)　ノオオ　前(チエン)
四六開三開　二開　二合　皆開テ二三四合　四六開

ムムムム
皆開テ二合三合四合五合六合引

醉(ツイ)胡(ウ)蝶(テ)

一(イイ)　更(キン)　裡(リイ)　天(テン)　一(イイ)　更(キン)　裡(リイ)　天(テン)
四六開三開三合四合四開　皆合　六開　四六開三開三合四合四開　皆合　六開

月(ヱ)　照(チヤウ)　紗(サア)　窓(ツアン)　人(ジン)　ナア　未(ヲイ)　眠(ミン)
皆合　四六開　皆合　皆合皆開　皆合　四六開　四六開　皆開

披(ビイ)　窩(ヲ)　兒(ルウ)　寒(ハン)　ナア　凍(トン)　得(テ)我(コ)
四六開三開　四合　六合　皆開　四六開　四合　六合

渾(ホン)　身(シン)　上(シヤン)　戰(チエン)　ムムムムム　我(ゴヲ)的(テ)
皆開テ二合三合四合　四開　三開　二開一開一合二合三合引　四六開三開

肝(カン)　肝(カン)　我(ゴヲ)的(テ)　心(シン)　肝(カン)　何(ホヲ)　處(チイ)　貪(タン)
二開一開一合二合三四六引　四六開三開　二開一開一合二合三四六引　皆合　四六開四合　皆合六開

花(ハア)　ア　敞(ピイ)　下(ヒヤ)　了(リヤウ)　俺(アン)　敞(ピイ)　下(ヒヤ)
皆合　皆開　皆合　四六開　四合六合　皆開　四六開三開　皆開

了(リヤウ)　俺(アン)　ナ　你(ニイ)　在(ヅアイ)　花(ハア)　街(キヤイ)　上(ジヤン)
四合六合　皆開　六開　皆合　皆開　二合三合　四合　四開

闖(チエン)　ムムムムム
三開　二開一開一合二合三合引

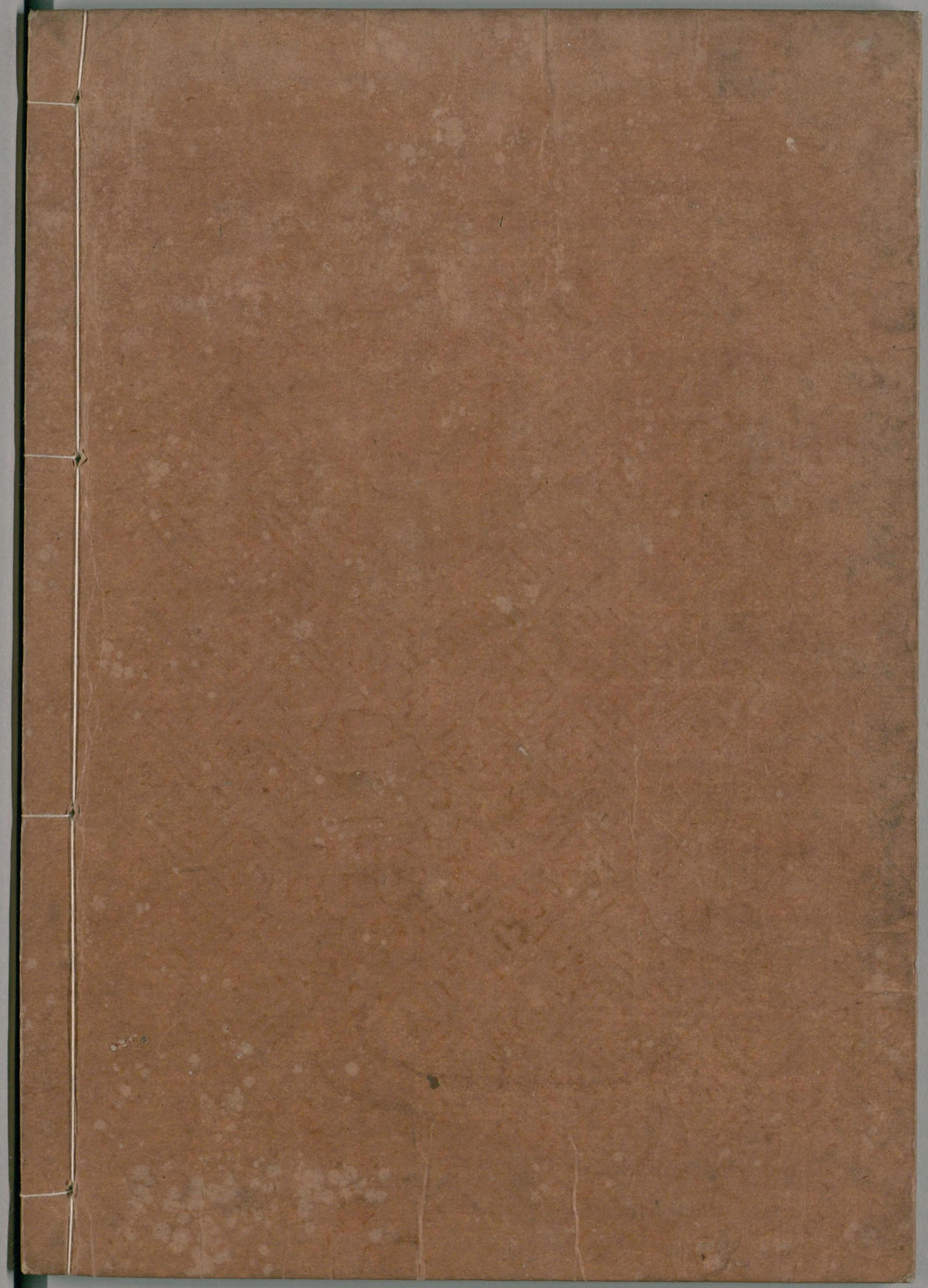
特7 4 332

国立国会図書館　タイトル『雅遊漫録』　請求記号 特7-332　ガラス使用

雅遊漫錄卷之五終

国立国会図書館　タイトル『雅遊漫録』 請求記号 特7-332

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『雅遊漫録』　請求記号　特7-332

ガラス使用